

# 第1講座 小説文(1)

1 次の文章は、夕方になつても帰つてこない第二人を、母に命じられて「私」が捜しにいく場面です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

まず私は近所の○○さんや××堂へ行つて、弟たちを見なかったかとか、どこかへ行くと行っていなかったかとか言つて聞きたしたが、何の手懸かりもえられなかつたので、不平でぶーぶー膨れ面をしながら、暗い路を○○神社の方へあるき出した。私の心の中の不平は憤りとなつて、その道々弟たちの上に燃えた。

しかしその報いられない搜索が別に確かなあてのあるものでもなく、そして何というつまらなく腹立たしいことを強いられているのだらうと思ひながら、その賑やかな通りを歩いてみると、小料理屋の格子から冷たい夜気の中へ白く湧き出てくる湯気や、醤油のたきつまる匂いは堪らなく私の空腹を淋しがらせはじめたのだつた。するとまた、こんな考えも浮かんでくる。——（もう彼等は家に帰っているかもしれない）そんな気持ち湧いて来ると、一人で空腹を押さえながら不熱心にその辺りをほつつき歩いている私には、その都合な想像が、やがて本当の事実として映るようになり、無責任にいい加減歩きまわつたのを機会に、私はまた急いで家へ帰りはじめた。

「帰つていたら、いきなり撲つてやる。」

私はまだ不平を街上に鳴らしながら家まで帰つた。

しかし私のその急ぎ込んだ予想も、家のしきいをまたいだ瞬間に、それが裏切られていたことがわかつた。弟たちはまだ帰つていなかった。しかし会社からは父が帰つていた。

「どうだつた。」

父が尋ねた。

「○○神社へ行つたのですがいませんでした。」

「××町は。あの●●は。」

「行きませんでした。」

「あそこを捜しておいで。」

空腹の私に飯も食わさないので、もう一度近くもない××町までやろうとする父の気持ちだが、乱暴にも、残酷にも言語道断に思えた。（飯も食わずに○○神社まで行つたんだぞ）と心の中ではぶんぶん憤つていた。父の前には温かな湯気を立てている鍋があつた。私はその匂いに力強くひきつけられた。

さつき食わずに出たものを、母がなぜ、飯を食つてからゆけと言わぬのだろう。私にはそれがまた腹立たしかつた。私はまたこじれた考えを抱いた。ここで飯を食おうと言いはらう。父は私がもう飯をすませたことだと思つていたから、私がすぐにゆけるつもりでいたのだから。それだから、飯を食おうと言うともどかしがつて、飯は後にしてと言うだろう。そこで口答えをしてやろう。別にそのように意地悪い論理を働かした訳ではなかつたにせよ、飯を食わせると言つた私の心は、不平のあまりたしかにその辺を大きく狙つていたに違ひなかつた。

「さきにご飯を食わせてもらいます。」

「なんだ、ご飯はあとにしてすぐ行つておいで。」

「お腹がへつてるんです。」

「それじゃ三郎や四郎はどうなんだ。あれらも腹を空かせてるじゃない

か。」

③「それは勝手です。」

④自分ながら言い切ったなと思った。

父が見る見る目に角を立てるのを母は制しながら、さつき食ってゆけと言ったのを食わずに行っただからと言って、飯の用意をしてくれた。

(梶井基次郎『夕風橋の狸』)

\*1不平を街上に鳴らしながら2不平を道々言いながら。

問一 [ ]にあてはまる言葉として最も適当なものを次のうちから選

び、記号で答えなさい。

ア 家に帰ったら腹一杯食うぞ。

イ まさか事故になどあつてやしないだろうな。

ウ 捕まえたら、撲りつけてやる。

エ いったいどこに消えたのだろう。

問二 線①「その都合な想像が、やがて本当の事実として映るよ

うになり」とは、具体的にはどうなったということですか。

問三 線②「意地悪い論理」とありますが、どのような点が「意地

悪い」のですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア「私」が弟たちを捜しにいかないと両親が困ることを見越して、捜しにいかないといい張ろうとしている点

45

イ 食事をしようとしている父に、「私」がまだ食事をしていないことを教えて気まずい思いをさせようとしている点

ウ 「私」がまだご飯を食べていないのを父が知らないことを利用して、口答えをしようとしている点

エ 弟たちを心配している父に口答えをして、「私」と弟たちのどちらが大切かを考えさせようとしている点

問四 線③「それは勝手です」とは、どういうことですか。最も適

当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 父が「私」よりも弟たちのことを心配するのは親として身勝手であるということ

イ 弟たちが腹を空かせているのは、弟たち自身の責任であるということ

ウ 「私」が腹を空かせているのは、弟たちが腹を空かせていることが原因であるということ

エ 「私」がご飯を食べるのは、「私」の当然の権利であるということ

問五 線④「自分ながら言い切ったなと思った」という表現から感

じられる「私」の気持ちを簡潔に説明しなさい。

# 第10講座 古文(1)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

無益のことをなして時を移すを、愚かなる人とも、<sup>①</sup>ひがごとする人ともいふべし。国のため、君のために、止むことを得ずしてなすべきこと多し。<sup>②</sup>そのあまりの暇いくばくならず。<sup>③</sup>思ふべし、人の身に止むことをえずして営むところ、第一に食ふもの、第二に著るもの、第三に居るところなり。人間の大事、この三つには過ぎず、飢ゑず、寒からず、風雨にかされずして、しづかに過ぐすを **A** とす。ただし人みな病ひあり、病ひにかされぬれば、その **B** 忍び難し。医療を忘るべからず。薬を加へて四つのこと、求め得ざるを貧しとす。この四つ欠けざるを富めりとす。この四つの外を求め営むを **C** とす。四つのこと儉約ならば、<sup>④</sup>誰れの人か足らずとせむ。

(兼好法師『徒然草』)

10

問一 — 線①「ひがごとする」の文中の意味として最も適當なものを

次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 優れてかしくふるまう
- イ 華美を好み贅沢なことをする
- ウ 粗野で乱暴なふるまいをする
- エ 道理に外れたことをする

問二 — 線②「そのあまりの暇」とは、どのような意味ですか。最も

適當なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 義務的な職務などをする以外の時間
- イ なすべきこともなく無駄に過ごした時間

ウ 生きるための最低限の労働をしたあとの時間

エ 慣習的なつき合いのためにさく時間

問三 — 線③「思ふべし」で始まる一文に用いられている表現技法を

次のうちから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 隠喩法
- イ 擬人法
- ウ 倒置法
- エ 省略法

問四 — **A**、**B**、**C**にあてはまる言葉として最も適當なものを次のうち

から選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア うれひ
- イ 楽しみ
- ウ おごり
- エ たより

問五 — 線④「誰れの人か足らずとせむ」の意味として最も適當なものを

次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 誰に足りていると信じさせられよう
- イ 誰も満足だとは言わないだろう
- ウ 誰が足りないとするであろうか
- エ 誰かが不足だと責めるであろう

問六 筆者の説く貧乏と富裕とは、それぞれどのようなものですか。簡潔に説明しなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

\*1 二十日の夜の月いでにけり。山の端もなく、□の中よりぞいで来る。かうやうなるを見てや、昔、阿倍の仲麻呂といひける人は、もろこしに渡りて、帰り来ける時に、舟に乗るべきところにて、かの国人馬のはなむけし、別れ惜しみて、かしこのからうたつくりなどしける。あかずやありけむ、二十日の夜の月いづるまでぞありける。その月は海よりぞいでける。これを見てぞ、仲麻呂の主、わが国にかかる歌をなむ神代より神もよんたび、今は上中下の人も、かうやうに別れ惜しみ、喜びもあり、悲しびもある時にはよむとて、よめりける歌、  
\*4 青海原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも  
\*5 とぞよめりける。  
(紀貫之『土佐日記』)

- \*1 かうやうなるを□このような光景を。
- \*2 阿倍の仲麻呂は奈良時代、留学生として唐に渡った。
- \*3 よんたびはお詠みになり。
- \*4 青海原は古今和歌集では「天の原」となっている。
- \*5 ふりさけ見ればはるか遠方を望み見ると。

問一 □にあてはまる漢字一字を書きなさい。

問二 線①「かの国人馬のはなむけし」の意味として最も適当なものをお次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 阿倍の仲麻呂が別れのあいさつに来て
- イ 阿倍の仲麻呂が旅立ちの合図をして
- ウ もろこしの人が歓迎の言葉を述べて
- エ もろこしの人が別れの宴を開いて

問三 線②「からうた」とは、何ですか。最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア 短歌
- イ 長歌
- ウ 和歌
- エ 漢詩

問四 線③「あかずやありけむ」の現代語訳として最も適当なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

- ア なお満足しなかったからである
- イ 夜が明けなかったからである
- ウ あたりが暗かったからである
- エ 潮が舟出に適さなかったからである

問五 線④「上中下」とは、人間の何について言っている言葉ですか。文脈から考えて、二字の熟語で答えなさい。

問六 線⑤「三笠の山」とは、どこにある山ですか。文中から地名を書き抜きなさい。

問七 「青海原」の歌について説明した次の文の□a・bにあてはまる言葉として最も適当なものをあとから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 作者(紀貫之)
- イ 阿倍の仲麻呂
- ウ もろこしの人
- エ もろこし
- オ ふるさと